



大手通坂之上町地区再開発事業

(仮称)

米百俵プレイスから 始まる新たな未来

連載

その五 経営・創業

かつて先人は未来を見据え、長岡のまちの礎を築きました。そして今も同じ志を持って活躍する人がいます。次代を担う若者たちにその想いを伝え、未来へとつなぐ「米百俵プレイス（仮称）」への期待の声と魅力を紹介します。

岡中心市街地整備室 ☎ 39・2807

師の言葉を胸に 関西で財界の礎を築く



「士魂商才」の大実業家

とやま しゅうぞう
外山 脩造

天保13(1842)年～大正5(1916)年

栃尾地域出身。幼名は寅太。阪神タイガースの生みの親といわれ、かつて甲子園球場に銅像が建立。

武士の魂と商人の感覚を合わせ持ち、多くの事業を起した人。
士族ではなかったものの、長岡藩家老・河井継之助からの薫陶を受け「これからは商人の時代。お前は商人になれ」と諭されました。
継之助の言葉に従い、明治維新後、大蔵省に勤め、三島億二郎らが計画していた第六十九国立銀行（現・北越銀行）の設立といった長岡の産業の発展にも全面的に協力しました。
その後、欧州視察の経験を基に、阪神電気鉄道や大阪麦酒（現・アサヒビール）（株）、ガス、銀行、造船など多くの事業の立ち上げに尽力。「東の渋沢栄一」「西の外山脩造」といわれる実業家となりました。

ニーズに沿った“コトづくり”に挑む

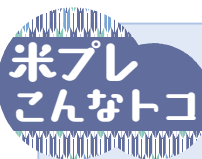
約30年前の創業当時は、社員2人の電子機器の下請け会社でした。継続的な取り引きもなく、受注も数社ほどで、長い歲月苦しい状況が続きました。
それを打破するために顧客視点に立ち、顧客ニーズの徹底的な調査を行い、長期的な販売戦略を練ることの重要性を認識しました。

お客様の中にある課題を解決するために、研究開発をあきらめず技術を先取りできれば、新たなビジネスの流れが生まれます。ものづくりを含むあらゆる物事は、コトづくりに注力することから始めると考えたのです。
米百俵プレイスには、一流の思考や多様な価値に触れられ、お手本になる人と出会える場になってほしいですね。全ての物事の本質は、たくさんの方の失敗や苦労した体験から見えてきます。多くの経験から積み重ねること、「真摯さ」や「健全な心」といった、バランス感覚に優れた社会的感性を育めるはず。



(株)システムスクエア
代表取締役社長
山田 清貴 さん

35歳の時、東京から長岡へUターンして創業。食品工場などの生産ラインに設置される異物検査装置で国内第3位のシェアを誇る。第9回外山脩造賞(令和2年)を受賞。



社会ニーズを捉えて
企業の挑戦や成長を支援



5階の産業フロアでは、専門家による経営・技術相談や起業支援が充実。社会のニーズに対応したプロジェクトへの挑戦や経営課題の解決など、経営者や起業家に寄り添って事業の成長・発展をサポートしていきます。



▲起業相談などはNaDeC BA SEで先行実施中